「漆小学校の漆バラ踊り伝承活動の取組」

１　学校名

姶良市立漆小学校

２　学年・人数

１年生から６年生（計 36 人）

３　日時・場所

⑴ 練習の日時・場所

令和３年８月　地域指導者と基本の動き練習（本校体育館）

令和３年９月　体育及び創意の時間による練習（本校グラウンド）

陣形確認の練習及び発表前リハーサル（本校グラウンド）

⑵ 発表の日時・場所

令和３年９月 19 日（日）　校区・学校合同運動会（本校グラウンド）

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統芸能，伝統工芸品について

⑴ 名称

漆バラ踊り（うるしばらおどり）

⑵ 由来

豊臣秀吉の朝鮮出兵時の凱旋祝いとして踊り始めたともいわれている，約 400 年の歴史をもつ伝統芸能。昭和期に入り，伝承活動が久しく途絶えていたが，昭和 52 年有志の手により復活。昭和 56 年には「漆バラ踊り保存会」が設けられ，地域全体で継承活動に努めている。毎年９月の校区・学校合同運動会で，地域住民に披露している。

⑶ 構成等

ドラ打ち２人・鉦打ち約６人・バラ打ち約 20 人で隊形を組み，竹バラに紙を張ったバラデコと鉦を打ち鳴らして踊る。踊りは，「三ツべ・カラ太鼓・七ツべ・門掛り・ビナマキ・ビナほどき・歌・引き」の八つの形からなり，これは島津の軍が，「ビナマキ（渦巻き）」戦法で攻め落とした様子を，「バラ踊り」の形で後世に伝えたものであると云われている。現在は踊り手も少なくなり，踊りも昔より簡素化されている。

５　保存会や地域との連携の具体

近年の児童数減少に伴い，特認校制度を活用して校区外から通う児童数が増え，従来の練習・継承方法に課題が生じ，存続が危ぶまれる状況が生じた。

そこで，令和元年度の四者協議（学校・ＰＴＡ・コミュニティ協議会・保存会）のもと，「それぞれができることを少しずつ協力し合い，伝承していくこと」となった。その後，令和２年度の四者協議の結果，「目的の共有化」が図られた。さらに，令和３年度は，「規約や組織を明文化」するまでに至った。

具体的には，協議会に事務局を置き，同会長が漆バラ踊り保存会の会長を兼任。協議会と保存会を中心に，日程調整や夜間練習の送迎，会計等を行っている。また，地元の指導者との連携を図っている。学校は，体育及び創意の時間で練習を行い，協議会とＰＴＡの連絡調整や広報を行っている。ＰＴＡは，道具等の修繕や練習サポート，映像による保存を行っている。四者が連携を強化し，活動を円滑に継続している。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

令和２年度・３年度はコロナ禍での実施に加え，特に令和３年度は，まん延防止等重点措置と練習期間が重なったため，８月及び９月上旬の練習が全て中止となった。

そこで，ＰＴＡを中心に基本の踊りを映像で保存し，ＹｏｕＴｕｂｅサイトを活用して，個人練習を各家庭で行えるように工夫した。これにより，９月に実施した学校での練習の際は，初めて踊る１年生も基本の踊りを踊ることができた。

また，ＰＴＡを中心に，最も困難なビナマキの動きのポイントとなる先頭と最後尾の担当者のみの少人数で動きの確認を行った。加えて，卒業生が練習や発表当日に踊りの支援に自主的に協力してくれた。これにより，少ない練習時間にもかかわらず，ビナマキが可能となった。

さらに，長年の懸案であった規約や組織について，協議会と学校で連携し，明文化する運びとなった。

７　取組の様子

【鉦打ち用の衣装づくり】

【夜間練習の様子】

【地域住民や卒業生のサポート】

【校区・学校合同運動会での発表】

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【６年生児童】

コロナで，発表できるか心配だったけど，動画を見て練習したり，友達と練習したりして，本番で披露できてよかった。最後の運動会だったから，踊れてよかった。

【保護者】

コロナ禍で，４回しか練習できず，しかも外での練習は雨でできなくなり，とても不安だった。本番がとても上手に踊れていて，感動しました。

【指導者】

４回しか練習できなかったのに，本番であんだけ踊れればよかったんじゃないの。漆の子どもたちは本番に強い。地域の人も喜んでくれたんじゃないかな。

【地域の方】

今年もバラ踊りをみっこっができちよかった。うちん孫ん子もがんばっちょった。